

平和 祈りの巡礼

東京・東禅寺住職

中野良教

「自分にできる事を仲間と共に行動することで何かが変わってくる」

鎌田厚志師の熱い言葉に押されて、東京での平和・祈りの巡礼が今年も行われました。

都会のひしめき合うビル群を縫うように、寺院や教会を巡拝し、それぞれが世界平和ひとつを掲げ、それぞれの信仰に基づき、祈りを捧げ行進する、そんな巡礼は二年目を迎えました。

八月六日、ジリジリと容赦なく万物を照らす太陽の下、それでも「何の其の」と集まってくださった面々は総勢二十余名。

ここで断っておくことがあります。今回の参加者の中に、厚志師はいないのです。この日は大阪の巡礼に加わるとかで、その報を聞いた小柄は「ど

うしたら良いか？」と、一気に心細くなったことを憶えています。

ところがです。嬉しい知らせが舞い込んできました。群馬県宗泉寺の柴山輝行師が私達の巡礼に合流してくれるというのです。厚志師が頼りない小柄の為に計らい、根回しをしてくれたのでしょうか。師は群馬県で平和の巡礼をいち早く実践している同志でもあり、厚志師と同じく私と大学の同窓で同安居の仲でもあります。さらに、師は同門の東京西麻布大安寺の久松孝道師を誘ってくださり、少しづつ祈りの輪が広がってくるのを感じ始めたのでした。

もちろん、初回よりの国連平和協会人権大使の奥健一郎さんの参加は何と言っても心強いことでした。中外日報の奥西極さんも大きな体を汗まみれにしながら、ご一緒していただきました。

昨年の巡礼でご尽力賜ったカトリック麻布教会の江部純一神父さんは、高輪教会の神父さんやそれぞれの信者さん

などにも呼びかけてくださり、祈りのご縁が一段と広がりをみせてきました。これはとても有り難い出来事です。

巡礼当日は鹿児島から厚志師の知り合いの岩崎正幸さんが飛び入りで参加していただきました。お陰で、文字通り宗教宗派を超え、僧俗が結集した「平和の巡礼」が実現したのでした。

昨年同様、大本山永平寺別院監院番澤剛俊老師のご配慮をいただき、同寺観音堂での祈願から巡礼は始まりました。ウクライナ大使館・カトリック麻布教会・浄土宗専称寺・日蓮宗妙経寺等、東京港区内各所を廻りました。ウクライナ大使館ではオレクサンドル・セメニュク公使とロシアによるウクライナ侵攻の早期終結について会談し、世界平和の祈りを捧げました。そして、私たちは東禅寺檀信徒からの義援金と群馬県内寺院からの和平を祈願した御朱印帳とウクライナカラーの手作りだるまを贈呈しました。

ともあれ、皆様のお陰で巡礼は無事円成することが出来ました。各寺院・各教会、その他関係の方々、参加の皆様には心より感謝御礼を申し上げます。

左は拙僧の偈一首（『傘松』令和六年十月号掲載）です。

平和巡礼

炎蒸八月仰蒼天《炎蒸の八月 蒼天を仰ぎ》

敗衄降旛経歳年《敗衄 降旛して歳年を経る》

遙遠軍聲戈未息《遙遠の軍声 戈（か）未だ息まず》

黒衣巡礼咽殘蟬《黒衣の巡礼 殘蟬咽ぶ》

（語彙 炎蒸（えんじょう）＝むし暑いこと。 仰蒼天＝青空を仰ぎ見る。 敗衄（はいじく）＝戦い敗れること。 降旛（こうはん）＝降伏の旗。 遙遠（こう）＝遠いこと。 軍聲＝戦鬨兵の聲。 戈未息（か、いまだやまず）＝戦乱がまだ終わらない。 咽（むせ）＝込み上げる悲しみで、息を詰まらせながら泣くこと。